

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500012		
法人名	特定非営利活動法人 まごころネットワーク		
事業所名	おおたかの森グループホーム あぜみち		
所在地	千葉県流山市大畔534番地		
自己評価作成日	平成23年3月15日	評価結果市町村受理日	平成23年5月18日

- ・同敷地内にある介護サービス施設との行き来でご利用者の多様な活動を図っている。
- ・同敷地内に菜園もあり、自然に囲まれ農道をゆっくり散歩できるに恵まれた環境である。
- ・ご家族はもとより、どなたにでも来ていただけるようなオープンな施設となっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成23年3月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内には法人で運営する通所介護や短期入所生活介護、小規模多機能型居宅介護等複数の施設があり、相互に連携合っている。このため利用者は施設間を自由に行き来できるオープンな環境の中で生活できていて、「笑顔で明るくオープンに」という理念が実践されている。

家族の来訪を促し、コミュニケーションを良くするために四季折々の花見に行ったり、クリスマス会や誕生会での家族との懇談、あるいは「あぜみち通信」「あぜみちだより」での近況報告など積極的な取り組みを行っていて、家族から評価を得ている。法人の支援もあって、職員は外部の研修にも積極的に参加するなど向上心が強い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“笑顔で明るくオープンに”というわかりやすい理念を掲げ、ホームの雰囲気大切にしている。	ホームの中は明るく清潔で、利用者はゆったりと安心して生活しており、「笑顔で明るくオープンに」という理念が浸透している様子うかがえる。外部からの訪問に対しても対応は明るく、オープンな環境ができている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として、清掃行事に参加したり、地元農家の方のふれあい市場に出かけたりして交流を持つようになっている。	自治会には設立当初から加入しており、利用者も近くのお宮の清掃や地域の行事に参加している。また近隣のGH相互で訪問し合って理解と連携を強化している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られたご家族にホームの説明をしたり、相談に対し、アドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、活動報告、課題、反省報告をして、ご意見をいただき、サービス向上に活かしていけるよう取り組んでいる。	年4回の運営推進会議には自治会長の出席も得、地域の方のGHへの理解に努めている。当初あった認知症に対する偏見も徐々に解消し、地域におけるホームへの理解度も深まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	充分とはいえない。 積極的なアプローチが必要であると感じている。	市との連携は主に理事長が対応している。3か月に1回のGH連絡会には市の職員の出席も得ているが、ホームから個別の相談や協力依頼をしやすい関係構築までには至っていない。	今後の継続的な努力に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由を奪う行為になっていないか、常に留意して、職員間で話し合っってケアに取り組んでいる。	職員は毎年交代で外部の研修会に参加し、習得した知識はホーム内で水平展開している。 職員は身体拘束の正しい理解をしており、日ごろのサービスの中で身体拘束と受け取られる行為がないように常に職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に及ばないように、職員間の連携を強めることとストレス管理に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族が、相談された時具体的に活用する方法を示すまでに至らなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、随時疑問点には説明を付け加え理解をはかっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇親会でご意見等出していただく、他に随時要望に等受け入れ、運営に活かしていく。	家族懇親会、誕生会あるいはクリスマス会等家族と懇談する機会が多い。また「あぜみち通信」や「あぜみちだより」で本人の状況を家族に知らせていて、意見を言いやすい環境ができていて、意見を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月末ミーティングを開催し、意見提案を言ってもらい、反映させていく方向でやっている。	毎月末のミーティングのほか、全職員にアンケート調査を行い、それを基にして専門の知識を持った職員が個人ごとに面談を行って意見を吸い上げ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・折に触れ、職員の声に耳を傾け、個々の努力をねぎらい、意見など聴くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性を考慮した上で、研修または働किながらトレーニングしていけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の連絡協議会で相互訪問の形を取り、サービス向上に役立つ取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気を作り、傾聴、受容の態度で、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人が同席をしていない所で時間をかけて傾聴し、ご家族の心の安定にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも含めたベストな方法を探るためアドバイスもさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活者という意識で心地よく暮らせるような関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	“お便り”を発行し、近況を報告したり、家族懇親会の開催などで共に支えていって欲しい旨をアピールしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力が必要な部分に関しては難しい事もあるが、支援していきたいとは考えている。	入居前に訪れていた馴染みの場所へ一緒に行ったり、近所の方や友人の来訪時にはくつろぎ易い場の提供や、お墓参りにお連れするなどの支援をしている。本人が馴染んだ行きたい場所にはなるべく希望に副えるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がうまく関わりながら、孤立だけはしないよう気を配って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用期間中のADLや気づき事項をお話し、相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活動作、会話、表情などから気づきを職員間で申し送り、把握に努めている。	契約時に思いや意向の聴き取りをしている。また入居後は一対一での関わりに重きを置き、会話や仕草を通して意向の把握に努めている。日々の気づきは申し送りノートに記録し職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取り、ご家族からの情報(センター方式記入)により把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を利用して、一日の過ごし方を記録に取り、職員間で共有把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身の変化に伴い、職員間の話し合い、家族との相談を経て介護計画の見直しをするようにしている。	センター方式を用いて介護計画を作成している。記録を元に職員間で話し合い、本人・家族の希望・意向の反映された計画を作成し家族に説明している。モニタリングは定期的には4ヶ月毎に行い、状況の変化時は都度の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、ケアノートへの記入事項を職員が把握し、情報を共有して活かしているようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同敷地内に別の介護サービス事業体と行き来し、柔軟な支援ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館での催しに参加したり、ボランティアで腹話術を定期的に見せてもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が定期受診に付き添われるが、必要に応じて職員も同行し説明させてもらったり、逆に質問させていただいている。	入居前からのかかりつけ医受診には家族が対応し車いすの方には職員が同行している。緊急時対応の2ヶ所の協力医療機関と歯科医療機関がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護師に相談し、適切なアドバイスを得たり、実際に診てもらったりもしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院には速やかに情報を伝え、治療の役に立つよう努め、相談・連絡も必要に応じて、すぐ対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、家族との話し合いで方針を共有し、取り組む体制ができている。	看取りはしていないが、特別な医療が必要になるまでは出来るだけホームで過ごしていただけるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行うことはしていない。 個人的に勉強をしたり、救命法の講習を受けたりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の状況に応じた避難方法は身につけている。 近隣との協力体制もとれている。	本年度は消防署指導のもと緊急時避難訓練と自主訓練を実施した。災害時の近隣との協力体制は出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇として、言葉がけは敬う気持を忘れず、丁寧な声かけを心がけている。	職員の言葉遣いに配慮している。子ども扱いしない、友だち言葉を使わないなど、利用者一人一人の来し方に合った対応が出来るよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との信頼関係を築いた上で声かけに工夫して、気持ちを表にだしていただけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちをまず確かめるような声掛けから始まり、無理強いにならないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶ所から、本人と共にを心がけ、楽しい会話の中でおしゃれに関心を持ってもらうよう声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に応じて無理のない形で一緒にやっていただいている。	出来る方は野菜の下ごしらえ、配下膳、テーブル拭きなど職員と一緒にやっている。職員は声掛けやさりげない食事介助をしながら同じ食事をしている。行事食の取り入れや外食に行くなど食べる楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減、嚥下能力などを見ながら食事量、形態を考えている。水分摂取量にも気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは介助の方も含め、全員行っただけよう声かけしている。就寝前は義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は時間を決めて、あるいはご本人の行動から推察して声かけをし、トイレ誘導をし、トイレ排泄を支援している。	リハパンやパッド、布パンツの利用などその方に合った下穿きを使用しており、排泄パターンを捉えて、なるべくトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医との連携により、適時便秘薬も使用したり、食事内容にも気をつけて便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常午後の昼食後から入浴となるが、体調、希望等により、午前中、就寝前でも対応できる。	職員の人手の多い午後の時間帯で、1週間に2～3回の入浴を支援している。希望により午前中や就寝前入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りたいとの訴え、あるいは様子があればいつでも自室で休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬準備と服薬実行の際のチェックをし、間違いのないように努めている。 薬のことを知り、症状の変化に速やかに対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族からの情報を元に少しでも楽しい、うれしいと感じていただけるよう、試行錯誤して取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、一人ひとりの戸外外出がかなうよう努めている。 無理のない範囲での外出支援を心がけている。	朝日を浴びることをモットーに、天気の良い日は散歩を励行している。食材の買出し時の同行や近郊の公園に皆で出かける、など車でやや遠出も組み合わせた外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方には、お金を所持していただき、買い物にも同行し、支払いも見守りにていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話対応ができる方にはこちらからかけたり、受けたりしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、観葉植物を置き、絵画を飾って心が和む空間作りに努めている。	明るくて広い居間で利用者は各々、本を見たり、寛いだりしている。観葉植物の鉢植えが置かれ、壁には花の額や利用者の作品が飾られ、温度や音などにも配慮して居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2か所に置き、くつろげる空間を演出、奥の間にティーラウンジを配し、隠れコーナーのようになっていて落ち着ける場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた家具、飾り物などを自由に持ち込んでいただいている。	入居前からの使い慣れた筆筒や小物など馴染みの物が持ち込まれ、各居室ごとに好みに配置され生活の継続が図られるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いホール、長い廊下にも手すりがあり歩くだけの運動も確保できるようになっている。		